

2 平成18年度札幌南一条病院 B S C 達成度

	指 標	平成18年度目標値	実 績 値
財務の視点	①医業収益	20.5億円	21.2億円
	②キャッシュフローマージン	6%	8.2%
	③一般病棟ベッド稼働率	80%	78%
	④血液透析患者数	135名	138名
顧客の視点	⑤年間健診患者数	200以上	103（人間ドック24、 血管ドック79）
	⑥患者満足度	良い以上90%	良い以上95%
	⑦職員満足度	すべての項目5以上	設備・施設環境で5.2 を含めすべての項目5 以上

内部プロセスの視点	⑧レベル3以上のインシデント数	40以下	10
	⑨QC活動サークル数	5以上	13
	⑩平均在院日数	18日以下	17.2日（18日以上 の月が3回）
学習・成長の視点	⑪HOT／SAS新規導入患者数	10／15	26／60
	⑫腎生検／PTA／シャント手術数	12／25／25	13／27／17
	⑬冠動脈造影／PTCA／PMI数	70／15／15	77／16／11

平成18年度のB S C達成度においては、おおむね予想通りの結果を得ることができた。

それぞれの項目について概説したい。

- ① 財務の視点に関しては、平成18年度は介護・医療の診療報酬同時改定であり、改定幅も－3.16%と過去最大であった。当院においても、一億円以上の減収が予想される中、5階病棟の障害者病棟への変更、7：1看護の取得、透析部門の薬剤使用の効率化、リハビリ部門の対策などが効を奏して、平成17年度の収益を上回る事ができた。内容を精査すると、外来患者は微増、入院患者数は微減であったが、患者単価の上昇と経費の削減により、収益を確保できたようである。この厳しい医療情勢の中、これらの結果を残せたのは、ひとえに職員一人ひとりの努力の賜物と感謝したい。

一般病棟のベッド稼働率は、実際78%であり（5階病棟を除くと実に72.3%）、予想を大幅に下回っている。特に、9階病棟の稼働率は58.9%と低く、平成19年度は、2ベッドを5階に移動して効率化を図ることとしたが、今後抜本的な対策が必要になると思われる。血液透析患者数は、診療報酬の減額分をカバーするため、約5%の増加が求められたが、目標を上回ることができた。また表には提示していないが、CAPD患者の増加も特筆される。

- ② 顧客の視点では、診療報酬改定に依存しない収益源としてドック業務を開始した。血管ドックは年間79名、9月から始めた人間ドックは24名と順調に増加している。広報活動の充実とともに、今後が期待される。患者満足度向上のために、外来空調の検討を行いサイ클ーの取り付けを行った。また外来では、音楽配信とアー

トギャラリーと称して画像表示を行うと同時に、患者待ち時間の確認のため、患者番号の提示を行っている。入院患者に対しても、院内カーテンの交換、床頭台の新規入れ替えなど、環境整備を行った。職員に対しては女子更衣室の暖房設置とロッカーの新規入れ替えを行った。これらにより、今まで職員満足度調査にて、常に5.0以下であった設備・施設環境の項目が5.2と初めて5.0を越えることができ、全項目5.0以上となったことは、職員モチベーションの観点からも非常に大きい意味を持つと考えられる（この点については、基本問題検討委員会報告で詳述する）。

- ③ 内部プロセスの視点では、平均在院日数は17.2日と年間を通して満足のいく数値であったが、18日を超えた月が3ヶ月平均で11月・12月・3月と3回認められた。9月以降に入って、入退院数が減少しており、月平均80名程度で推移している。ベッド稼働率を維持しながら、平均在院日数を減少させるには、直接患者数を増加させることに加えて、検査入院や平均在院日数除外患者の入院が不可欠である。職員自主参加型の活動としてQC活動を行っているが、平成18年度は過去最高の13チームの参加があった。多くの参加があった割には、各チームの内容も高く、今後に期待が持てる結果であった。インシデント数は、レベル3以上の事故は10件と激減している。今後も安全管理委員会を中心に、安全管理を充実させていきたいと思っている。
- ④ 学習・成長の視点では、それぞれの科において、各医師の努力により、予想通りの活動をしてもらった。呼吸器科では、HOT・SASの導入患者は大きく増加し、循環器・腎臓内科においても、ほぼ予想通りの結果を残している。今後とも、病病連携、病診連携の強化に加えて、小規模勉強会なども企画していきたいと考えている。